

もみじ太鼓

平成30年度 9月14日
京都市立高雄中学校 学校だより
なかま・夢・成長～夢を育む学び舎の創造～



平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に、本校3年生11名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と数学と理科に関する調査と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

正答率について、A問題（主として知識を調査する）の平均は、全国平均とほぼ同じ。B問題（主として活用を調査する）は、残念ながら全国平均を下回っていました。個々の問題に注目すると、2つの課題が見えてきました。

- ①「ある条件のもと、相手にうまく伝わるように書けない」生徒が多いことです。A問題では、「二つの意見を一つにまとめ、相手にわかるように書く」、B問題では、「相手に的確に伝わるよう、あらすじを捉えて書く」の正答率が低くなっているからです。普段の授業で、「書く」ということ自体には抵抗のない生徒が多いのですが、「文章を練る」ということがあまりできていないということがわかりました。
- ②「古文への苦手意識がある」生徒が多いことです。古文を題材にした文章の正答率が低くなっています。

【課題を克服するためのアドバイス】

- 文章については、常に「読み手」を意識して、理解しやすい文章を書くことが大切です。書き終わったら必ず読み返し、ていねいに推敲を行うことを心がけましょう。
- 古文は、まず声に出して何度も読んでみること。古文のリズムをつかむと、親しみやすくなります。また、「慣れる」ために色々な問題に当たることも一つの方策です。

数学科より

A問題（主に知識を調査する）とB問題（主に活用を調査する）を観点

別にみると、「数量や图形などについての知識・理解」「数学的な技能」についての正答率は比較的良好でした。しかし、「数学的な見方や考え方」の問題の正答率が低かったです。基本的な計算や問題については、一定の理解が見られますが、長い文章やグラフを丁寧に読み取り、「問題を解く方法を説明する」「图形の証明問題」といった所に課題が見られます。この状況をふまえ、2学期以降に行う関数分野、图形分野の授業の中で、「問題の解き方・考え方」「証明問題」について説明する機会を増やしていきたいと思います。

【記述式問題へのアドバイス】

- これまで学習した「一次関数」「証明問題」をもう一度復習しましょう。一次関数の利用の問題で、文章をしっかりと読み取り、「グラフでは何を表しているのか」を正しく理解できることが大事です。
- 証明問題では、学習した様々な条件（合同条件等）をもう一度見直し、筋道を立てて、相手にしっかりと伝える練習をしましょう。

理科より

各分野（物理・化学・生物・地学）とも平均値と大きな差異はありません

でしたが、評価の観点別にみると、技能に関わる問題での正答率が高い反面、化学的思考の、記述式の問題で平均を下回る結果となりました。特に地学分野で、「知識・技能は身に附いているが、説明が出来ない」という顕著な結果が見られました。実験観察には丁寧に取り組んできた成果が見られますが、自分のことばで説明し、自分の考えを文章で表すという機会を増やしていきたいと考えています。

【記述式問題へのアドバイス】

- 話し合いの授業の中で、「なぜそうなるのか」「そうなったのはなぜか」を丁寧に説明するように心がけて文章を作りましょう。
- 日常の中にある疑問に対して、「なぜそうなるのか」を考え、人に説明するのもいいでしょう。

生徒質問紙調査から

＜学習について＞ 本校生徒の家庭学習の特徴を全国平均と比べてみると「家で学校の宿題をする」「家で授業の予習・復習をする」という項目は、全国平均を大きく上回り、一定の家庭学習の時間を確保できていることがわかりました。しかし、「普段（月曜日から金曜日）に、1日あたりどれくらいの時間読書しますか。」という項目は「30分未満」「全くしない」と答えた生徒の合計が90%でした。また、「新聞を読んでいますか。」という項目は、「月に1～3回程度読む」「ほとんど全く読まない」と答えた生徒の合計が90%でした。読書離れがますます進んでいることがわかりました。

＜規範意識について＞ 「規則を守る」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」という問い合わせについては、昨年度に引き続き全国平均を上回っています。子どもたちは、自律し人のことを考えることのできる人間に成長していくこうとしていることがわかります。

＜自尊感情について＞ 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」という項目は、「当てはまる」としっかり答えた生徒が全校平均を下回っていました。よいところがたくさんある生徒たちですが、自分自身について模索している状況がうかがえます。

＜地域への关心や参画＞ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がある」等の地域に関する項目は全国平均を大きく上回っています。地域行事への参加や貢献によって、次世代を担う中学生の地域のことを考える素地が育まれているようです。

全体を通して本校の課題と成果

本校では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という京都市の方針のもと、学力向上の取組に関しては、高雄小学校と全校調査やジョイントプログラム等の学力の情報を共有して、日々の指導方法の改善や、個に合った指導に努めています。



生徒も、日頃の学習に対して前向きに取り組み、学校行事や地域行事等に積極的に参加し、学校全体として良い雰囲気のもとで頑張っています。

今回の調査で、安定した生活習慣のもと家庭学習に取り組み、規範意識もあり、よりよく成長していくこうとしている子どもたちの姿が明らかとなりました。一方、自分に自信が持てず、新たなことにチャレンジしていくこうとする積極性に欠ける部分が見えてきました。また、自分の考えを説明したり、相手に伝わるようにわかりやすく文章にまとめたりすることが苦手な生徒が多いことが明確になりました。

学校として、継続してきた「積み重ね学習」の効果もあり、家庭学習の習慣化は図れてきているようです。また、「朝読書」に取り組んだり、学級文庫の設置、新刊や推薦図書の紹介をしたりしています。授業では、自分の考えをまとめ発表したり、人の意見を聞いて考えを深めたりする場を増やしていますが、さらに文章や事象をしっかりと理解し、相手に伝わるように説明できる力を身に付けるように努力していかなければならぬと考えています。一方、キャリア教育として、将来展望を持てるよう様々な体験や取組を実施しています。子どもたちが自分の強みを自信として、夢を持ち目標に向かって行動し続ける力を身に付けるように、取組の充実を図っていきたいと考えています。

【保護者の皆様へ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力ををお願いいたします。